

平成二十四年度

中学校入学試験問題 国語

第一回（二月一日実施）

試験開始の合図があるまで問題用紙は開かず、左記の注意事項をよく読んでおきなさい。

- 一、問題は25ページまであります。足りないページや、印刷のよく見えないページがあったときは、手を上げて申し出てください。
- 二、解答用紙は別になっています。答えはすべてそこに記入してください。
- 三、解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。
- 四、問題用紙には、受験番号・氏名を書く必要はありません。

ようです。声に出して言ってみたくなるオノマトペですね。大いに癒されます。

今度は初句に入れる言葉を考えましょう。

「秋の雲浮き子供らはどこか遠くへ遊びに行けり

(河野裕子『紅』)

秋の雲が浮いているさわやかな日、作者の子供たちはどこか遠くへ遊びに行きました。まだ小学生くらいの子でしょう。気持ちのよい天氣に誘われて遠出したらしいのです。子供たちもだんだんたくましくなるなあ、と作者は雲を眺めています。

「まっ白な秋の雲浮き」や「空いちめん秋の雲浮き」などでもよいのですが、ここはやはりやさしいオノマトペで詠み始めたいところ
です。「さやさやと」や「ふんわりと」は^⑩おとなしすぎますね。「ふわふわと」や「ぼわぼわと」など、「ば行」の音(ぼ、び、ぶ、べ、
ぼ)を使うと可愛らしい感じになるかな、と思います。作者は「ぼ」を生かしながら、

ぼぼぼと秋の雲浮き子供らはどこか遠くへ遊びに行けり

と詠みました。「ぼぼぼと」は、理屈でなく感覚として共感を呼ぶオノマトペです。軽々として輪郭の淡い雲。のんきに浮かぶ雲が見えます。「ぼぼぼと」が、たんぼぼの「ぼぼ」を連想させるのも魅力です。たんぼぼの絮毛が飛ぶのは春なので、この歌と季節
がズレますが、それでも遠くへ出掛けた子供たちの姿と、風に乗るたんぼぼの絮毛が重なり合って、歌の思いを豊かにしています。

〔栗木京子『短歌をつくろう』による〕

問1 — 線①「短歌でこれをやっていたら、たちまち」「に」とあるが、「」には「これをやつ」た場合の短歌を表現

した言葉が入る。その言葉を三字で書きなさい。

問2 — 線②「さらに効果を上げています」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 同じ音で終わる言葉を使うことによってリズム感を持たせ、吹き荒れる風と激しい雨音の奏でる美しい旋律を意識させる。
ロ 「夕行」や「ラ行」の言葉を何度も使うことによって、それらの音の持つ硬質なイメージが強調され緊張感を増している。
ハ 「とどろかせる」という意味の言葉を使うことによって、辺りに響きわたる音を明確にイメージさせて臨場感を持たせる。
ニ 似たような音の語を使うことによって、強調表現の一つである反復法のような印象を与え、無気味さがいつそうきわだつ。

問3 — 線③「物事の状態や様子を感覚的に示した表現が擬態語です」とあるが、次の中から擬態語を使っているものを、一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 宅配便の人が台車をごろごろと引っぱる。 ロ 近頃は英語が話せる人などごろごろいる。
ハ 遠くのほうで雷がごろごろといっている。 ニ 猫をなでると大抵のどをごろごろならす。

問4 — 線④「宮沢賢治」が書いた作品を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 蜘蛛の糸 ロ 走れメロス ハ 銀河鉄道の夜 ニ 五輩は猫である ホ ユタと不思議な仲間たち

問5 — 線⑤「とても斬新です」の「斬新」とほぼ反対の意味を表す五字の言葉を、これより前の文章中からぬき出して答えなさい。

問6 — 線⑥「便利だけれど、けっこう手強い」とあるが、その理由を説明した次の文の【Ⅰ】・【Ⅱ】に当てはまる表現を、これより前の文章中から【 】の中に指定された字数でぬき出し、それぞれ初めの三字ずつを答えなさい。

- ・ オノマトペが「便利」なのは、【Ⅰ 24字】からであり、「手強い」のは、【Ⅱ 23字】だから。

問7 — 線⑦の歌の「時」という語に「 」がついているのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 青々と繁る大樹の上の雄大な空を見上げ、実際には見えない「時」がゆうゆうと過ぎてゆくことを感じ取ったことを詠んだ歌なので、その感動の中心である「時」を強調するため。

ロ 大樹の上の澄み切った空を見上げた時に感じた春から夏への季節の移ろいを主題とする短歌なので、その感動の中心である「時」を、決められた音数の中で視覚的に表現するため。

ハ 夏空を描くことによって作者はゆったりと漂う自分自身の心を歌に詠み上げたが、その心を余韻として感じさせるきっかけとなった「時」を強調し、前面に押し出したかったため。

ニ 「夏の空」に対する感動を詠んだ歌であるが、主題の「夏の空」という言葉をあえて使わずに、オノマトペを使って夏という「時」に注目させて間接的に主題を感じ取らせるため。

問8 — 線⑧『過ぎてゆくのだなあ』と、【 】の意味を帯びています【 】に当てはまる言葉として最も適当なものを、一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 反語 ロ 回想 ハ 疑問 ニ 詠嘆

問9 文章中の——線で囲まれた部分にあるイ、ホの各文を、意味が通るように並べかえ、記号で答えなさい。

問10 《A》《B》に当てはまる語として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。

- イ きらりきらりと ロ とろりとろりと ハ はらりはらりと
- ニ ふわりふわりと ホ むにゃむにゃと

問11 ——線⑨「童話の一場面を見るようです」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 空に漂っている状態を表すオノマトペにより、感傷的な印象を与えている。
- ロ 心がおおいに癒されていくオノマトペにより、現実的な印象を与えている。
- ハ 広い空に浮かぶ感じがするオノマトペにより、古典的な印象を与えている。
- ニ おだやかな雰囲気を持ったオノマトペにより、牧歌的な印象を与えている。

問12 ——線⑩「おとなしすぎますね」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 十分には癒されないということ ロ 洗練されていて上品すぎる
- ハ 語感の印象がうすいということ ニ 説明的すぎる表現だということ

次の文章を読んで、後の1〜10の問いに答えなさい。

西洋のことわざに、「雄弁は銀、沈黙は金」という言葉があります。「口から泡を飛ばすような雄弁よりも、黙して語らぬほうが分別があり、すぐれている」という意味です。

なぜか日本では「沈黙は金」だけが切り離されて、「おしゃべりが^①□を超すと人間の価値を下げることになる」という、いましめの意味でよく使われています。「A」と同じように、「沈黙」は奥ゆかしさの要素の一つとみなされているわけです。

けれど欧米社会の現場では、^②こういう考え方はまったく通用しません。私自身の経験から言うと、沈黙は「金」ではなく「罪」であり、「何も考えていない愚か者の証拠」です。

たとえば、ビジネスの交渉の場や、シンポジウム、ディベートなどに出席して、ひと言も発言しない人がいたとします。

日本では、「何か発言すればいいのに。ずいぶんおとなしい人だな」と思われるくらいですむかもしれませんが、欧米では、「あなた、なんのためにここにいるの?」という目で見られます。場合によっては、「邪魔だ」と思われるかもしれません。自分の考えを何も発言しないということは、非常に恥すべきことだと思われるのです。

ところで、ここで使った「欧米」という言葉は、日常語としてよく使われますが、語源をたどれば、「欧」は欧州、つまりヨーロッパ、「米」は米国、つまりアメリカのことです。しかし、「欧米」とくつつけたとたんに、欧州と米国を一緒くたにしてしまって、

^③、ヨーロッパとアメリカを同類項に押し込めてしまったような解釈が横行しています。日本以外の先進国という意味であれば、「欧米」も必ずしも的外れではありませんが、「欧」と「米」は共通項こそあれ、本質的には大違いです。ただ、このことは念頭に置いたうえでとりあえず、「欧米」という言い方をここでは使います。

「雄弁は銀、沈黙は金」ということわざは、^④原則の世界のことであって、現実には、黙っていたのでは何もことは運ばないし、何も手に入れることができません。

阿吽の呼吸とか、「B」とかといった言い回しがあるように、日本人の多くは、^⑤口に出して言わなくても、相手は理解してくれるはず」と考えがちですが、欧米社会では、はっきり口に出して言わなければ何も理解されないし、自分から動かなければ何一つ自由になりません。

小学生の頃は平気でみんなの前で意見を述べ、先生の質問に積極的に答えていたのに、中学、高校と進むにつれて引つ込み思案になった、という人はいませんか。

人の目が気になり、「誰かに意見を否定されたらカッコ悪い」「人前に立つのだからミスをしてはいけない」「答えを間違えたら恥ずかしい」といった気持ちが強くなるのは、思春期特有の現象ともいえます。

でも、人前でミスをしたり意見を否定されたりすることは、ぜんぜん恥ずかしいことではありません。一歩日本の外に出れば、尻込みして何も発言しない方がよほど恥ずかしいことなのです。

意見を述べている時に頭がパニックになったり、意見を否定されて動揺したりすることは誰にでもあるのですから、気に病むことはありません。思っていることを言わないで後悔するより、後悔するくらいならその時に言っておく、というほうがはるかに精神的に健康です。

私は二〇代後半からヨーロッパを中心に仕事をするようになりましたが、その時、公の場で自分の考えをきちんと発言できるようになりたいと思い、「国際会議やシンポジウムの席で、必ず一つは質問をする」という課題を自分自身に与えました。

^⑥私にとって難しい課題でしたが、これに慣れない限り、コミュニケーション力やプレゼンテーション力や交渉力を高めることはでき

ない、と考えたのです。

でも、そうは思っても、はじめは会場の片隅にちょこんと座ったまま、手をあげるタイミングさえつかめず、ひと言も発言できずうなだれて帰ってきました。

そこで次は、「質問をしないうちは帰らない」と心に決めて、あるシンポジウムに参加しました。基調講演に耳を傾ける余裕もなく、質疑応答に入るのを今か、今かと待っているうちに、ようやく質疑応答になり、^⑧□を決してぱっと手をあげると、演壇上の講演者から指名され、それと同時に案内係の女性が飛んできてマイクを私の前に差し出しました。

ところが席を立ちマイクを手にしたその瞬間、^⑨それまで考えていた質問が頭の中からすべて吹っ飛んでしまったのです。結局、何も言えずじまいで着席しました。

「ああ、大恥をかいてしまった。周りの人達はさぞかし僕のことをレイ笑しているだろうな」と思いましたが、周囲にはざわめきすら起こらず、マイクを手渡す係の女性はさつさと別の質問者のほうに飛んでいきました。

「そうか、思っていたほど聴衆は他人のことなど気にしてないんだな。ましてや、こちらの失敗をあざ笑っている暇はない。世間の目や他人の迷惑を気にする必要なんかないんだ」と気づいた私は、それからは人前で失敗することを恐れなくなりました。

もちろん、この事件の前までは、「人前で恥をかくことは、できれば避けたい」という気持ちはありました。でも、「このままずっと避け続けていたら、自分は一生変わらない」とも思ったのです。

こうしてその後も、「実践→□□↓挫折→反省→新たな実践→新たな□□↓新たな挫折」を繰り返していくうちに、少しずつ公場で発言できるようになっていきました。

みなさんにも、できる範囲で、こうしたトレーニングを行うことをお勧めします。

たとえば、将来ついでみたい職業があるとします。建築家、照明デザイナー、庭師、大工、陶芸家、美容師……どんな職業であれ、興味を持っている分野で活躍している人に会ってみたいと思うのなら、方法はいくらでもあります。インターネットで検索すれば、すぐに何人もの名前が出てきますし、人物を絞り込めば、その人の実績や、「いつ、どこで講演会をする」といったスケジュールを知れることもできるでしょう。

はじめのうちは、「この人に弟子入りするんだ」とか、「この分野を一生の仕事にするんだ」などと思いつめず、「面白そうだから、もうちょっと詳しく知りたい」くらいの感覚でいいのです。そうやって関心のあるものにくっつか接していくうちに、「自分は絶対にこれをやりたい！」というものが見えてきます。

目当ての人を見つけたら、^⑩その人の講演会などに□を運んで話を聞き、質疑応答の時に何か質問をしてみるとよいでしょう。中学生や高校生が質問をしても、問題はまったくありません。むしろ、若い人からの質問を喜ぶ人はたくさんいます。個人で勝負している人は、年齢や見た目で人を判断せず、個人のパッションをヒョウ価するのです。^⑪

勇気を出して手をあげて質問すれば、必ずきちんと答えてくれる。つまり、その質問をする前に比べると、あなたは新しい何かを手に入れていくわけです。

その「何か」とは、よそでは絶対に手に入らない貴重な情報かもしれないし、「尊敬する人が自分の質問に答えてくれた」という満足感だけかもしれません。でも、とにかく確実に新しい感動や知的刺激が手に入ります。

「的外れな質問をして笑われたら恥ずかしい」と尻込みして質問しなければ、何も得られず家に帰ることになり、成長は何もありません。だから、みなさんには手をあげて質問してほしい。

もしかしたら昔の私と同じように、当てられたとたんに頭の中が真っ白になって質問を忘れてしまうかもしれません。でも、それで

問7 — 線⑨「レイ笑」、⑬「ヒョウ価」、⑭「絶ク」のカタカナの部分と同じ漢字を書くものを、後の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。

⑨「レイ笑」 イ そんなことを言うと失レイだ。

ロ 体育の先生が号レイをかける。

ハ 私の町ではレイ年祭りがある。

ニ もう少しレイ静になりなさい。

⑬「ヒョウ価」 イ 理科室にはヒョウ本があった。

ロ ヒョウ論家の書いた文を読む。

ハ 事件はヒョウ山の一角だった。

ニ 開ヒョウ速報をじつと見守る。

⑭「絶ク」

イ 家を買うのに金をク面する。

ロ 厳しいク調で弟をしかつた。

ハ おじのク集が店頭に並んだ。

ニ 若い時父はク労したらしい。

問8 — 線⑩「実践」→□□→挫折→反省→新たな実践→新たな□□→新たな挫折」の□□に共通して当てはまる漢字二字の語を、文章中からぬき出して答えなさい。

問9 — 線⑪「その人」とはどのような人か。具体的に言い表した十五字以上二十字以内の表現を文章中からぬき出し、初めと終わりの三字ずつを答えなさい。

問10 — 線⑮「前向きなことについての『人前で恥をかく経験』は早いほどいいのです」と筆者が考えた理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 「人前に立つのだからミスをしてはいけない」と思うのは思春期特有の現象なので誰もが経験することである。だから、できるだけ早く恥をかく経験をしてしまえば、それだけ早くそのように考える時期を終えることができる考えたから。

ロ 「沈黙」が望ましい心の現れとして歓迎されるのは日本だけだということに早く気付くことが、世界で活躍するために最も重要なカギとなる。出過ぎた行いでも若いうちなら許されるという、前向きな考え方を若者たちに伝えたかったから。

ハ 勇気を出して自分の意見を発言すれば、たとえ恥をかいても何かを得て自分の中に良い変化が起こる。最初はできなくても、何度も経験するうちにできるようになることはよくあるので、早く経験すればそれだけ早く成長できると考えたから。

ニ 自分がコミュニケーション能力を高めて世界で活躍したのは年をとってからだった。この遅い成功は今でも恥ずかしいと思っているので、若い世代の人には早くから世界に出て、新しい感動を手に入れてほしいということを伝えたかったから。

学校には「科学」という名の科目はない。科学に含まれるのは、算数、数学、そして理科だろう。理科でも、物理や化学が一番科学らしい印象だ。生物や地学だって、立派に科学だけれど、一般的な認識^{にんしき}としては、文系の人が感じる「苦手さ」が、生物や地学では緩^{ゆる}やかになる。これらの違いは何だろう？

小学生になると、国語、算数、理科、社会といった授業がある。それぞれに教科書があり、たいていは担任の先生がそれらすべてを教えてくれる。

①、子供たちは広い分野について同時に学ぶ。この「学ぶ」というのは、具体的には、「情報を覚える」ことだ。

②、漢字の書き方を覚える。読み方を覚える。これと同じように、計算を覚える。

③、同じ「覚える」という表現でも、両者には大きな違いがある。「花」という漢字の形を覚えること、あるいは読み方を覚えることは、つまりは、一対一の対応を頭の中に記すことで、データをインプットすること（あるいはデータの関連を整理すること）に等しい。ところが、「 $1+1=2$ 」を教えられたとき、それは「 $1+1$ 」と「 2 」の関連をデータとして覚えることではない。

子供は最初、それを間違えるだろう。どうしてかといえは、それまでは、1、2、3という数の数え方を覚えたりしていて、個数というものを自然に認識していたけれど、計算については、（少ない場合に限られるが）実際に目に見えるものを数えれば良かった。つまり、計算というのは、「数える」ことの延長で可能だったのだ。数えることは、「順番」を覚えていればできる。それは、文字を覚えるように、データを頭にインプットすれば良い。

だから、数字という記号から「数式」へレベルアップしたときも、「 $1+1$ は、 2 になる」といった「当たり前さ」を突きつけられるだけで、「そんなこと知っているよ」と馬鹿^{ばか}にしてしまうだろう。「 $6+7$ 」くらいになると少し難しく感じる（数えるのに時間がかかる）けれど、しかし、それは「 13 」だと覚えてしまえばよいことだ。花の名前を覚えたり、地名や人の名前を覚えるのと同じように、一対一の対応で、それをデータとして処理しようとする。

ところが、足し算を覚えるということは、 $6+7$ の問いと、その答えを 13 だと記憶^{きおく}することではない。初めのうちは、この記憶方法で処理ができて、数は無限にあるから、とても全部を覚えることはできなくなる。

⑤、ここが、算数がほかのすべての科目と大きく違っている点である。しかし、子供はすぐにはその違いに気づかない。気づかない子供が多いだろう。気づかない子は、これまでどおりのやり方で、とにかく覚えようとする。幼児の頃から、覚えると褒め^{ほめ}られたからだ。応用問題でさえも、式を覚えようとする。中学生になると、公式を覚えようとする。数字や式を覚えることが、算数や数学を学ぶことだと勘違い^{かんごひ}したままだ。実際に、能力のある子供は、これである程度は点数を稼^{かせ}げる。しかし、いずれは無理になる。無理になったときには、もう遅い。テストのために「詰め込む」勉強が、こういった間違いを誘発^{ゆうはつ}している。

学科で教わることには、以上のように2種類ある。きつちりと分かれるものではないけれど、大別すると、「データ（情報）」と「メソッド（方法）」だ。

前者では、データを正しく自分にインプットし、それが必要なときの確に取り出せる能力が求められる。これはたとえるならば、自分の頭脳という倉庫に、沢山^{たくさん}の材料をストックし、それらをきちんと整理している状態を目指している。材料の名前や性質などの「知識」と、それらを関連づける「整理」が要求される。

これに対して、後者は、それらの材料を用いて加工する「方法」を覚えることになる。算数や数学というのは、一言でいえば「方法」なのである。

実は、国語も、算数と同じように「方法」を学ぶべき分野だと思われる。つまり、イメージを言葉にし、思考を文章として組み立てる「方法」が、国語で習得すべき基本的な能力だろう。しかし、今の国語教育は、テストに出しやすく、採点がしやすい問題に囚われているため、子供のうちに論理性を学ぶような機会がない。そもそも、国語を教える先生が文章の達人ではない、という問題が大きいだろう。漢字が書けるとか、読めるとか、そういった手法の前段階の些末な知識のインプットに終始している。算数でいうと、数字の書き順とか、読み方を繰り返して習っているレベルだ。

社会科も、小学校や中学校では、ほとんどが知識の羅列といえる。また、理科も、生物や地学は大部分、化学も多くは、「名称を覚える」学習になっている。例外的に、物理だけが、ものの道理を教えているように見える。そして、やはりここでも、それらの「違い」に気づかず、「物理は不得意だ」という子供が出てくるだろう。簡単にいえば、「何を覚えて良いかわからない」状態、「覚えることがないから勉強のしようがない」状態に陥っている。

「とにかく覚えなさい。理解はそのあとで良い」というシステムは、日本の伝統的なものだろうか。算数にも「九九」というものがある。歌のように覚えてしまえば、一桁どうしのかけ算ができるようになる。この九九のおかげで日本人は計算が得意だ。外国へ行くと、割り算とか引き算ができない人たちがけっこうな割合でいるので、日本人は算数ができるんだな、と感じてしまうことが多い。けれど、九九ができることが、数字を取り扱う頭脳にはマイナスになる、と僕は考える。九九は、数字の処理方法を「音」や「言葉」で記憶させてしまうから、頭の中で、数字の操作をイメージしない子供になる。算数の大事な感覚を遠ざけることになるだろう。

中学生のときに、試験のまえに同じクラスの友人と話をしている気がついたことがある。彼は、もの凄く勉強家で、こんなことも覚えてた、こんなことも知っている、と自慢をするのだが、それが数学や物理の分野にも及び、「〇〇の法則」「〇〇の原理」という名称を口にする。そんなの聞いたことがなかったから尋ねてみると、電流に抵抗を乗じると電圧になるとか、三角形の角度の関係だとか、当た

り前のことだった。しかし、彼にしてみれば、それらに「名称」があることが重要だったのだ。そういう名称を覚えて初めて「知っている」ことになる、と彼は信じていたのである。

それは、別に悪いことではない。たとえば、クイズ番組なんかで問われるのは、その種の「名称」である。ときどき、そういった場面でも知識量を人に自慢できるだろう。全然悪くない。知識人ならば、ある程度の知識（整理されたデータ）を持つことはもちろん必要であるし、たとえば、子供がつきつきになにかの名称を覚えたら、やつぱり褒めてやりたくなるだろう。「そんなこと覚えるなんて怒る人はいない。」

それでも、やはり問題はある。というのは、名称を覚えることで満足し、それ以上を理解しようとする気持ちをなくしてしまう傾向があるからだ。言葉を覚えることで、無意識のうちに「立ち入らない」境界を作ってしまう。名称を知っていることと、それを理解していることは同義ではない、という認識を常に持たなければならぬ。

あまりにも、「言葉」を頭にインプットしすぎてしまうと、ほかのことを考えたくなくなってしまうかもしれない。記号化された言葉というのは、とてもシンプルで、記憶することが容易い。そもそも、記憶や伝達のために生まれたのが言葉である。名称が伝達できれば、それで事足りる。名前が思い出せれば、それで問題はない。そういうのがおおかたの日常ではある。

⑩ そうなると、事象の理屈を理解する苦勞を避け、「そんな難しいことはいいから、結論だけ教えてくれ」というふうになりがちだ。そちらの方が圧倒的に楽だからである。短絡的に、「とにかく、答えを教えてください。それを覚えるから」と口にする人はずいぶん多い。

この傾向は、子供のときに形成されるものだけれど、むしろ大人になってから、さらに「思い込み」として強化され、「自分は文系だから」というシールドで防御するようになる。そういう大人は、子供たちに「算数なんか社会に出てなんの役にも立たない」と言い切るようになる。子供も、それを信じるだろう。

比較ひかくをすれば、算数が不得意な人はいるだろうし、そういう苦手なものを嫌きらうことをやめろ、と言うつもりで書いているのではない。不得意でも良い、嫌きらっても良い、でも、極端きょくたんに目を背そむけるようなことは自身にとつて損だ、ということに気づいてほしいのである。最初は小さな「損」でも、積み重なれば大きくなる。小さなチャンス⑪を見逃みのがし続ければ、きつと経済的にも損をするだろうし、もつと重大なことでいえば、自分の健康や、危険きけんから身を守ることにか関わってくる。単なる「損」のうちが良いけれど、それが大きくなれば生死を分ける「運命」にもなりかねない。

〔森博嗣もりひろし』科学的とはどういう意味か〕による〕

問1 ①・②・③ に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。

イ そして ロ やはり ハ たとえば ニ ところが

問2 ー線④「この記憶方法」を具体的に言い表した十五字の表現をこれより前の文章中からぬき出し、初めと終わりの三字ずつを答えなさい。

問3 ー線⑤「ここが、算数がほかのすべての科目と大きく違っている点である」と筆者が述べている理由を、五十字以上六十字以内で説明しなさい。ただし、「算数はほかの科目と違い、」に続くかたちで書き、「整理」・「加工」の二語を必ず用いること。

問4 ー線⑥「論理性」とはどのようなことか。それを説明した二十七字の表現をこれより前の文章中からぬき出し、初めの五字を答えなさい。

問5 ー線⑦「些末な」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ かけがえのない ロ とるにたりない ハ のつぴきならない ニ まぎれもない

問6 ー線⑧「それらの『違い』」とは何と何の違いか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 情報と方法 ロ 数学と数式 ハ 名前と道理 ニ 文系と理系

問7 ー線⑨「シンプル」、⑩「チャンス」の言いかえとして適当なものを、それぞれ次のカタカナの語の中から選んで正しい漢字に改めて答えなさい。

メイカイ / コウウン / カンソ / キホン / コウキ

問8 — 線⑩「事象の理屈を理解する苦勞」とは具体的にどのような「苦勞」のことか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 文系理系の区別にこだわらず広い分野について学び、社会に出て役立つ勉強を続けていこうとする苦勞。
- ロ 知識の量を増やしていくばかりでなく、得た知識を現実に活用するための整理を続けていこうとする苦勞。
- ハ 結論を出すことだけにとらわれず、自分で考えるために多くの知識を頭の中に蓄え続けていこうとする苦勞。
- ニ 名称を知るだけで満足せず、そのものを理解することを求める態度や認識を常に持ち続けていこうとする苦勞。

国語解答用紙

座席番号

受験番号

氏名

Blank box for name

一

問 1

Answer box for question 1

問 2

Answer box for question 2

問 3

Answer box for question 3

問 4

Answer box for question 4

問 5

Answer box for question 5

問 6

Answer box I for question 6

問 6 II

Answer box II for question 6

問 7

Answer box for question 7

問 8

Answer box for question 8

問 9

Answer box for question 9 with arrows

問 10

Answer box A for question 10

問 11 B

Answer box B for question 11

問 11

Answer box for question 11

問 12

Answer box for question 12

問 1

Answer box ① for question 1

問 2 ⑧

Answer box ⑧ for question 2

問 2 ⑫

Answer box ⑫ for question 2

問 2 A

Answer box A for question 2

問 2 B

Answer box B for question 2

問 2 C

Answer box C for question 2

二

問 3 I

Answer box I for question 3

問 3 II

Answer box II for question 3

問 4 ③

Answer box ③ for question 4

問 5

Answer box for question 5

問 6

Answer box for question 6

問 7

Answer box ⑨ for question 7

問 7 ⑬

Answer box ⑬ for question 7

問 7 ⑭

Answer box ⑭ for question 7

問 8

Answer box for question 8

問 9

Answer box for question 9

問 10

Answer box for question 10

三

問 1 ①

Answer box ① for question 1

問 1 ②

Answer box ② for question 1

問 1 ③

Answer box ③ for question 1

問 2

Answer box for question 2

問 3

			算
			数
			は
			ほ
			か
			の
			科
			目
			と
			違
			い
			、

問 4

Answer box for question 4

問 5

Answer box for question 5

問 6

Answer box for question 6

問 7

Answer box ⑨ for question 7

問 7 ⑪

Answer box ⑪ for question 7

問 8

Answer box for question 8